

発行 = 21世紀教育研究所  
所長 中山和彦

〒305-0045 茨城県つくば市梅園2-33-6  
TEL 0298-50-3321 / FAX 0298-50-3330  
E-mail econews@eri21.or.jp  
URL http://www.eri21.or.jp

学校で子どもたちのためにコンピュータを上手に活用するために 北村小学校の取り組み 5年生「四角形と三角形の面積」～スタディノート&さんすうランチボックス2の教育利用～	茨城県つくば市立並木小学校長 萩原俊夫 1 北海道空知郡北村立北村小学校 足田博和 3
- インタラクティブ・スタディ こんなことできるかな?できるといいな! -	5
インタラクティブ・スタディいよいよ始動!	6
教育実習ポートフォリオ - よりよい教師になるためのチェックポイント10 -	7
スタディノート実践事例集 ビデオ 塩尻市立塩尻西小学校「ふりかえる、発見する、挑戦する」の紹介	8
つくば市立並木小学校研究発表会のご案内 / 書籍紹介	8

## 学校で子どもたちのためにコンピュータを上手に活用するために

茨城県つくば市立並木小学校長 萩原 俊夫

### 1. 並木小学校の現在までの状況

つくば市立並木小学校は、平成元年度にクラスルームC A Iシステムが導入され、41台のコンピュータがLANで結ばれ、個に応じた完全習得学習を進めてきました。その後、平成9年に、CATV高度化計画実証実験参加校としてコンピュータ・ネットワークの利用方法の研究に着手しました。C A Iシステムとは別に、図書室(現在のメディアルーム)に2人で1台利用できるように21台のコンピュータを設置してネットワークを組み、インターネット接続を行いました。さらに、全職員が協力して手作りで校内20カ所にネットワークコンピュータを設置し、全長2キロメートルに及ぶイントラネットを構築し、各学級に2～3台のコンピュータを設置し現在、100台のコンピュータが接続されています。この回線では、C A I・スタディノート・インターネットをメインに活用しています。その他、14台のフロッピーディスクが使えるデジカメ(マビカ)を使っています。1人1枚のフロッピーとグループ1台のマビカがあれば自分が写したいときだけフロッピーを入れて写真が撮れ、後で編集が楽に出来ます。子どもが発表会で使用するスクリーンが感圧式タッチパネルになっているスマートボード2台は、発表者が聞く人の方を見ながら画面の操作が

でき画面への書き込みも出来ます。プレゼンテーションに幅が出来、自分もあれを使って発表してみたいという意欲を持たせます。

### 2. 完全習得学習を目指したC A I

C A Iは、現在2系統の回線を使って活用を図っています。1つはコンピュータ室で従来の基礎基本の完全習得学習を目指した「みんなでスタディ」と、校内の全コンピュータでいつでも利用できる「ひとりでスタディ」を常時活用しています。もう1つは、C A I専用のサーバーを設けて低学年の児童が簡単にC A Iの起動・学習・終了が出来るようにしてあります。この様にすることによって子ども達は抵抗なく休み時間にC A I学習を楽しんでいます。正答を入力して、正解というメッセージが返ってくると出来た満足感が子どもの表情からうかがわれます。キーボードにも知らず知らずに慣れていきます。1年生でもキーボードを使って文字を入力出来るようになっていきます。

### 3. 時間と場所の枠を乗り越えたスタディノート

スタディノートは、児童の学習の成果を発表し、学校の枠を越えて国内に学習課題を共有する人々との共同学習の窓口を広げてくれます。価値ある情報を

発信するためには、児童一人ひとりが明確な自分の課題を持ち、実際に調べたり、実験したりして活動に深く関わった経験を持っていなければなりません。また、共同学習では、課題を調べていく過程で、互いの思いや願いを認め合い、温かく人と関わり合う事の大切さを体験している必要があります。単に自分の知りたいことを、知ればよいということではなく、自分が調べていく中で他の人から教えてもらった時の感謝の心、自分が人の役に立った時の充実感を育てなければ、メディアを通じた人との関わり合いが上手にできません。本校では、子ども達が学習課題の設定 調べ学習 まとめ 発表 討論 さらに深まった学習課題の設定というサイクルをくり返していきます。調べ学習では体験的な活動を主体に行います。そこで自分が主体となって体験したことは、自分の言葉としてスタディノートにまとめていきます。体験を自分の言葉でまとめ、中間発表会でグループ討論をします。自信を持った自分の言葉での発表は、説得力があり聞く人を真剣な討論の場へと引き込んでいきます。その時活躍するのがスタディノートの画面と調べ学習で使ったり作ったりした実物やデジカメで記録した映像です。これらがプレゼンテーションでは情報の伝達に大きな役割を果たします。討論による情報の共有は、新たなより深い課題へと道を開き、互いの認め合いによって深められた信頼感は次回のさらに真剣な討論会への扉を開いていきます。直接討論に参加できなかった他のグループはスタディノートの掲示板でいつでも好きな時に見ることが出来、情報の輪が時間と場所の枠を越えて校内はもちろん他校へと広がっていきます。最近ではデジカメのムービー機能を使ってビデオメールといったさらに臨場感のある情報へと子どもの関心が向いています。「先生あの映像はどうやって撮るの。やってみたい!」といったことが先生から子どもへ、子どもから子どもへと伝わっていきます。一斉に使い方を教えていたのでは、こう効率的には事が運ばないことが多いものです。教える方も未熟、教わる方も未熟、その中を真剣さが伝わっていきます。

電子掲示板では、学年の枠を越えたコミュニケーションも見られます。2年生の疑問に6年生が答えることもあります。6年生は、2年生に教えるために十分な準備をして全力で教えます。他校とのやりとりでは経験のある子どもが答えるため学年にはとらわれないで取り組んでいます。

#### 4. 子どもの学習を支援する教師の役割

本校では、このような子ども達の学習を支援するために、先生方が協力して取り組みます。忘れ去られ

た情報は発信者の子どもの意欲をそいでいきます。その様なことが起きないように、先生方は情報を受け止め認めたり、情報の求め先を指示したり、共同学習者を探したりと支援していきます。この様な教師の活動が円滑に進むよう情報主任を中心とした情報部員会を組織して研修をすすめています。また、異動などにより、はじめてスタディシリーズにふれる先生を支援したりスタディノート研修会に派遣しています。これらの先生方にとって何より刺激となるのが、すでにコンピュータを使っている子どもの姿です。先生としては、子どもが使っているのに自分が使えないなどという事は容認できません。この子ども達の姿が、短期間に先生方にコンピュータを上達させるすごい原動力となっています。ちなみに、小学1年生にスタディノートを最初に教えるのは6年生の児童が行います。2~3人の6年生が1人の1年生に教えていきます。6年生の児童が自分で出来ることでも1年生に教えることは難しいものです。しかし、何とかやり遂げます。この効果は絶大です。間もなく1年生もスタディノートを使えるようになります。

さて、子どもが積極的にコンピュータを使うためには、コンピュータが使いたい時に完動する状態に保たれていなければなりません。細かいトラブルを解消したり、メールの送受信を済ませたり、情報モラルの指導をしなければなりません。校長は、先生方が問題と感じていることを、早急に把握し解決への道を開かなければなりません。老朽化した機器の交換、先生の研修会への派遣、など予算を伴う事には見通しをもって先手先手と手を打たないと間に合いません。組織を生かし必要な情報を漏らさずキャッチして対応出来るよう努力していきたいと考えています。

最後に、平成17年度には各教室からインターネットが出来るようになるということですが、本校では平成9年度にこの様になったことを考えると、本校の先代の校長先生、先生方が努力して築いたこのシステムが、子ども達に主体的な学習の場と充実感を提供していることに、その先見性と行動力に改めて敬意を表すると共に、今後のさらなる発展を目指して先生方と共に努力をしていきたいと考えています。





## 北村小学校の取り組み

5年生「四角形と三角形の面積」

～スタディノート&さんすうランチボックス2の教育利用～

北海道空知郡北村立北村小学校 足田博和

### 北村立北村小学校のコンピュータ環境とスタディノートとの出会い

地域の5校を統合して新しい学校が誕生したのが平成9年。コンピュータを積極的に教育活動へ活用するために、設計の段階より一人1台を保証し、40台のコンピュータを配置しました。

平成9年の北海道十勝のマルチメディア研修会での、余田先生との出会いがそのまま北村小学校とスタディノートの出会いとなりました。

以来、学びあいと自分の学習の振り返りを通して学習を深めることができるソフト「スタディノート」を中心とした「道具としてのコンピュータ利用」を実践してきました。現在はコンピュータ教室全台へのインターネット回線接続・各教室への校内LANの構築を整え、「マルチメディアの教育利用」へと発展した実践を追求しています。

### 実践の紹介

5年生 算数「四角形と三角形の面積」

コンピュータ活用の視点と、「スタディノート」と「さんすうランチボックス2」利用のメリット  
北村小学校におけるコンピュータ活用の視点は以下の4点です。

意欲を高める道具として

思考力の向上を高める道具として

表現力を助ける道具として

コミュニケーションの道具として

これらを基盤として、「スタディノート」と「さんすうランチボックス2」を併用することにより、以下のメリットが期待できます。

「さんすうランチボックス2」の活用により

- ・図形の変形等の自由な操作活動を短時間で行うことができる。

「スタディノート」の活用により

- ・自分の考え方を説明することにより思考力の向上を図ることができる。
- ・全員の発想を大切にできる。
- ・他者との比較検討が容易である。

特に今回の実践では「スタディノート」の音声ボタンに着目し、子どもの多様な考え方を音声で媒介として説明することにより、思考力の向上と数学的な考え方の育成を図りました。

### 基本的な授業の流れ

基本的な授業の流れは、まず「さんすうランチボックス2」で図形の変形をし、それをスタディノートに貼り付けます。その際に自分が考えた方法を音声ボタンの使用により説明を加えます。

### [操作方法]

「さんすうランチボックス2」のかたちを作ろうを利用し三角形を変形させる。

\* 自由な操作活動を保証して発想を大切にし、思考力の向上を高める道具として活用する。

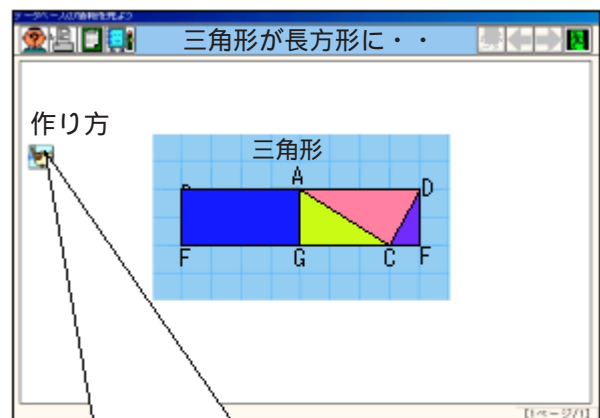
変形した図形をプリントスクリーンし、スタディノートに題をつけて記録（クリップボードの内容の貼り付け）させる。

\* ちょうどよい大きさ、位置に調節していく。

音声ボタンで変形の方法を説明させる。

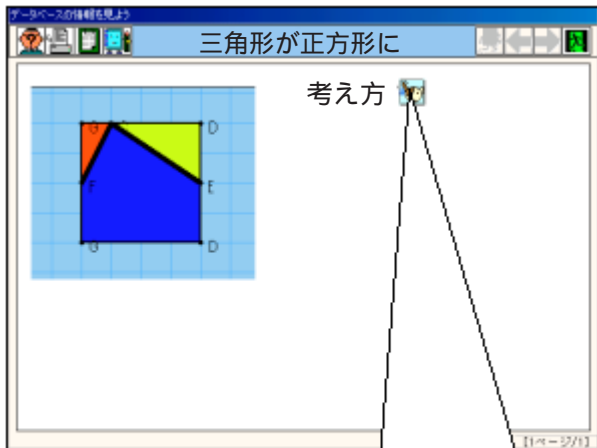
\* どのような考え方で変形を行ったのか音声で説明させることにより、自分の考え方をまとめ、整理することができる。

\* 三角形を長方形と三角形の組み合わせにして一つの長方形に変形する方法



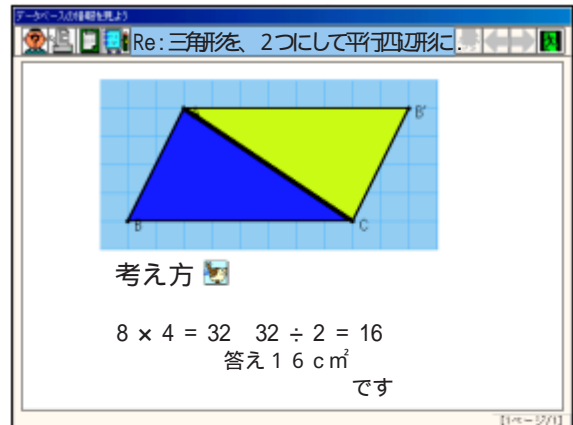
三角形を1つの長方形と3つの三角形に分けて、1つの長方形ができました！

\* 三角形の両方のはじを切って、一つの正方形に変形する方法



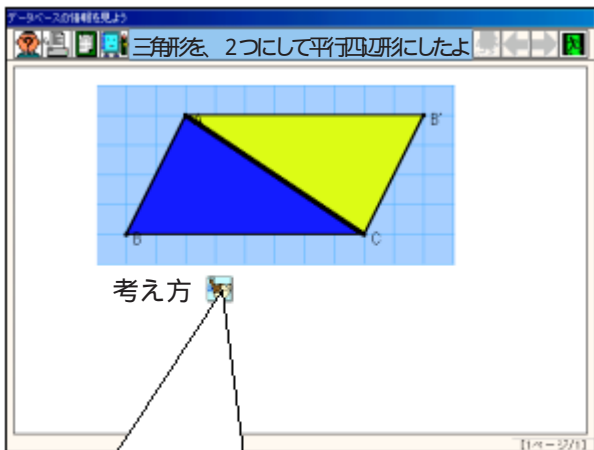
三角形の左右を切って、回転させて正方形に変形ができました。

グループ分けされた方法で実際に面積を求めてみて、子情報でその方法について自由に意見交流をさせていきます。



グループ分けされたデータベースの方法で実際に面積を求めてみて、その方法に対する意見や求める式を子情報として加えていく。

\* 三角形を2つにして、大きな平行四辺形をつくる方法



三角形を2つ使って、大きな平行四辺形が作れたよ！！

子情報を意見交流することにより、面積が求めやすい方法を検討していき、次の段階では、三角形の面積を求める公式をつくることを知らせます。

実践を終えて

今回の実践では以下のメリットがありました。

- ・子どもの学習を広げ、新たな学びを生み出すことができた。
- ・三角形の変形の方法を音声ボタンを使って説明をすることにより、思考力の向上、数学的な考え方の育成につながった。
- ・スタディノートの掲示板・データベースなどのコミュニケーション機能を生かすことで、一人一人の考えが全体に広まったり、全体の中で一人一人の考えが深まるなど、子どもに成就感・満足感のある学習を行うことができた。

その後、スタディノートの電子掲示板で変形方法を発表させて、多様な考えを比較検討します。変形の方法でグループ分けをしたデータベースに一人一人の方法を親情報として加えさせ、全員の発想を大切にします。

さんすうランチボックス2、さんすうランチボックス3

発売元 / 株式会社 創育

お問い合わせ / [TEL] 03-3793-8663 [FAX] 03-3794-0277 [URL] <http://www.soiku.co.jp/index.html>

この他、算数・数学で活用できる図形ソフトとしては、筑波女子大学の垣花先生ご推薦の愛知教育大学助教授飯島康之先生が開発されたフリーソフト『G C (Geometric Constructor)』があります。このソフトは飯島先生のホームページからダウンロードできます。こちらのホームページには、詳しい解説、参考文献例も掲載されていますので、よくお読みいただき、ご活用下さい。

愛知教育大学助教授 飯島康之先生のHP <http://www.auemath.aichi-edu.ac.jp/teacher/iijima/index.htm>

## 【信州大学Webスタディ開発ワークショップ 成果発表会から】

### - インタラクティブ・スタディ こんなことができるかな? できるといいな! -

信州大学で行われた『Web教材開発ワークショップ - インタラクティブ・スタディへの招待 -』の成果発表会で、ECHOの会 (Educational Computing in Hokkaido:21世紀教育研究所北海道の会) の先生方がインタラクティブ・スタディのこれからについて自由に話し合われた中から出てきた夢や提案を発表されました。すぐにも取り掛かれそうなものから、実現にはまだまだ時間のかかりそうなもの、実現できるかどうか未定なものまでありますが、小・中学校の先生方の立場から見たインタラクティブスタディの可能性の一端としてご紹介いたします。

#### **こんな教材ができるといいな!**

インターネットを使って、どこでもいつでも学習可能なインタラクティブ・スタディでは、家庭で学校の学習の続きができる他、どんなことができるのだろうか? 学校教育の延長線上、または、発展的学習のためにインターネットを使っていつでもどこでも学習できる教材とは、どんなものが考えられるだろうか。

##### 1. 復習・予習のための教材

教科書を中心とした学習で、子どもたちが家庭で復習や予習をする時に自分の考えでできるコースがあったらいい。たとえば、算数/数学で教科書に出てくるすべての計算領域が入ったドリル教材があれば、自分で復習したい時やテストの前などに自分の場所、時間で勉強できる。さらに、単なる問題集に終わらないで、治療を含む教材であれば、家庭で自分のペースで自分に合った復習・予習ができる。

##### 2. 授業では取り上げにくい疑問などにアドバイスする教材

普段から疑問に思っていたり、今、授業で勉強していることには直接関係ないけれども知りたいことについてアドバイスするような教材。たとえば算数で「なぜ0で割ってはいけないのか」、「なぜ-と-をかけると+になるのか」といったことは中学2、3年生になっても説明できない生徒が多い。教師にとっても簡単に説明しにくい問題である。こうした事柄について、アドバイスをする教材がインタラクティブ・スタディにあれば、時間がある時にじっくり学習できていい。

##### 3. 応用問題、発展問題

授業では時間がなくて取り上げられない難しい問題、応用問題がインタラクティブ・スタディの教材に用意されていれば、好きな時に好きな場所で学習できるので、発展して勉強したい子にも対応できる。

##### 4. 勉強したい大人のための教材

学校で習ったことをもう一度勉強したい! という大人のための教材は需要が多いかもしれない。

##### 5. 親と子が協同で学習する教材

さらに、家庭などで子どもと親が話し合ったり、コミュニケーションしながら学習を進める“夢の”教材ができたらいいなと思っている。

#### **「お家でスタディ」の???**

「家庭」でインタラクティブ・スタディの学習を学校の延長、または補助としてやる場合の問題点としては、まず、「先生を呼びなさい」をどうするかが挙げられる。また、「家庭で」と言っても、家庭でコンピュータ/インターネットを活用した学習できる環境を、どの子どもにも整えることができるのか。本当に子どもは自主的に家庭で学習をするのかといったことがある。そもそも、学校でできなかったことを、家庭でという考え方は学校という立場から考えると正しいことなのか、ということもあるが・・・。

#### **Web上で動く特性を生かしてできそうなこと**

インタラクティブ・スタディの新しい機能を生かしてどんなことができそうかをずっと考え続けていました。

##### 1. 教材についての過去のデータの参照・活用

HTMLのタグを使えるということから、学習者自身が、今自分が挑戦している問題に過去に何人が挑戦したのかといったことや、問題の正答率や難易度といったデータを見ることができるようにはできないか。そうならば、過去のデータを見て、むずかしそう、やさしそうといった難易度を自分で判断して問題を選ぶことができる。教材を作った教師が設定するある基準と比較した難易度ではなくて、学習者自身にとって難しいか易しいかといった基準で問題を選ぶこともできるようになる。

##### 2. インタラクティブ・スタディとスタディノートの融合

シームレスネス\*という言葉があるが、インタラクティブ・スタディとスタディノートとを(システムとしてシームレスに)行き来できるものがない

だろうか。現在は基礎基本のインタラクティブ・スタディ、話し合い空間のスタディノートとシステムが分かれていて、それぞれ使われることが多いが、実際の教室の中では、それらは渾然一体となった活動である。こんな教材があるよ、面白かったよといった情報交換から学習と進めたり、教材の中でわからなかったことをノートを使って他の学習者に聞いたり相談したり、また、友だちとの話し合いをしながら学

習するインタラクティブスタディ教材など、インタラクティブとノートの自由な行き来ができることでより学習の幅が広がるのではないだろうか?

**シームレスネス (seamlessness):** 情報システムのアプリケーション間、システム間で情報がやりとりされる場合、送り手から受け手の処理への移行が、システムの停止を伴うことなく、連続に行えるように考慮されていること。

## インタラクティブ・スタディ いよいよ始動!

日本中が猛暑に見舞われた2002年夏! 暑さにもめげず、各地で開催された研修会ではインタラクティブ・スタディの研修も多数行われました。そして、メディアコーディネータ研修会や信州大学のWebスタディ教材作成ワークショップに参加された先生方が企画運営や講師・インストラクターとして大活躍されました。

### 【2002年度夏期研修会「インタラクティブスタディ」関係研修会一覧】

No	研修会名	開催日	参加者	インタラクティブスタディの内容
1	Webスタディ教材開発ワークショップ-インタラクティブスタディへの招待-(信州大学)	7月27日-29日	50	Aコース:まったくの初心者、Bコース:各地域研修会のインストラクター、Cコース:実際に教材開発を計画している経験者
2	ECHOの会夏のミーティング2002 & 十勝・帯広コンピュータ教育利用2002夏季入門講座	8月7日	25	CAI教材体験と「32-18」の教材作成、梅津先生(札幌市厚別南中)の講演「インタラクティブスタディへの期待」。CASAによる教材作成デモ。
3	空知マルチメディア教育実践研究会夏季研修会	8月12日	8	MC研修会とインタラクティブスタディ信州大学の研修会への報告。ECHOの会の研修で作成した「32-18」をアレンジしたものの発表、SSPIによる具体的な開発方法のプレゼン。
4	第二回みちのく研究会	6月29日-30日	25	SSPIによるプレゼン。時計の読みかたの作者でみちのくのメンバーの中川先生のコメント。
5	コンピュータネットワーク利用研修会(長野県松川村)	6月1日	26	東原教授(信州大学)の講演。
6	夏の原村スタディ研修会(長野県原村)	8月6日	16	東原先生(信州大学)の講演
7	中部スタディブレインズ夏期研修会	8月8日-9日	25	信州大学、ERI21のホームページより教材体験、信州大学教材作成研修会報告、ビデオによる東原先生の講演
8	滑川市教育用コンピュータ利用研修会	8月9日	31	32-18、信州大学ホームページよりサンプル教材の演習。インタラクティブスタディの作成例の紹介。
9	コンピュータ教育利用夏期研修会(石川県教育センター)	8月10日	13	信州大学ホームページよりサンプル教材の演習。
10	名古屋市学習工学セミナー	8月19日-20日	85	センターサーバーを使った教材体験
11	東海市コンピュータ利用実践研修会	8月29日-30日	37	クラスルームサーバーでの授業体験、信州大学、ERI21のホームページより教材体験、CASAを使ったドリル教材作成 講師:余田教授(同志社女子大学)
12	コンピュータ教育利用夏期研修会(天理研修会)	8月21日~23日	21	インタラクティブスタディ概要説明(全体会)、分科会でインタラクティブスタディ教材を作成し発表。
13	沖縄県インタラクティブスタディ教材作成研修	7月23日	40	「CAI再入門の講義」、「7+4の解説」、「32-18の教材作成」、講師:東原教授(信州大学)
14	福山市学校教育研究団体連絡協議会 情報教育研究会	8月1日	45	Iスタディの構想についての講演、スタディサーバの教師用画面のデモ。教材作成。
15	東広島市視聴覚研究会主催「視聴覚部会研修会」	8月6日	10	教材作成中心。信州大学のHPの紹介(教材含む)、スタディサーバのデモ。
16	岡山市教育センター主催「コンピュータ活用研修講座」	8月7日	21	教材作成中心。信州大学のHPの紹介(教材含む)。
17	岡山市教委主催「岡山市情報教育担当者研修会」	8月20日~23日	92	教材作成中心。信州大学のHPの紹介(教材含む)。スタディサーバのデモ。
18	中津市情報教育研修講座	8月2日	47	教材作成・スタディサーバのデモ

## 教育実習ポートフォリオ

### - よりよい教師になるためのチェックポイント10 -

信州大学教育学部の東原義訓先生が、教育実習の時に学生(3年次生)が作成した教育実習ポートフォリオ『教育実習ポートフォリオ - よりよい教師になるためのチェックポイント10 -』をホームページで公開しています。

このポートフォリオは、学生が、「教育実習前」「教育実習中」「実習終了後の課題」についての自己評価を10の観点に従って記入したものです。学校の先生を目指す学生達が、

・教育実習前に経験したこと・抱いていた考え方

教育実習前にどのような場面(日常生活や大学の授業など)で、教師として求められている知識や資質を経験して身につけてきたのか

・教育実習中に経験したこと・学んだこと・実践したこと

教育実習中のどのような場面で、教育実習前に身につけてきた知識や資質を実践することができたか、そしてその実践は子どもたちの成長にどのように貢献できたのか

・今後の課題

今後の自分の成長(教師として、または人間として)を促進するにはどうすればいいかを、各観点に従ってまとめています。「教育実習前」「教育実習中」では、自ら5段階評価もつけています。

ここにあげられた10の観点は、教師を目指す学生だけでなく、すでに学校で活躍されている先生方にも、普通の授業などをふり返るときの参考になるかもしれません。是非、一度ホームページをのぞいてみて下さい。

URL / <http://cert.shinshu-u.ac.jp/pt/portfolio/index.html>

[2001年度基礎教育実習教育実習Webポートフォリオ] [専攻・学籍番号別][校種・教科別]

#### 【チェックポイント10の観点】

##### 1. 教科内容

教師は、自分が教えそして学習経験を創造することのできる、その中心的概念、探求の方法、学問領域の構造を理解している。ここでの学習経験とは、教科内容に関するこれらの側面を生徒にとって有意義なものにするようなものである。

##### 2. 生徒の学習

教師は、子どもたちがどのように学習し発達するのかを理解している。そして、知的・社会的・個人的発達を支援する学習機会を提供することができる。

##### 3. 多様な学習者

教師は、生徒によって学習の仕方がどのように違うのかを理解している。そして、個々の多様な学習者に応じた学習指導の機会を創造する。

##### 4. 教授方略

教師は、批判的思考、問題解決、実践スキルについての生徒の発達を促進するための様々な学習指導方略を理解して用いる。

##### 5. 学習環境

教師は、積極的な社会的相互作用、学習への活発な取り組み、自己の動機づけを促進する学習環境を創造するために、個人及びグループの動機づけや態度についての理解を用いる。

##### 6. コミュニケーション

教師は、教室における積極的な探究、協働、協力的相互作用を促進するために、効果的な言語的、非言語的、メディアのコミュニケーション技術の知識を用いる。

##### 7. 指導計画

教師は、教科内容、生徒、地域社会、教育目標に関する知識に基づいて、学習指導を計画する。

##### 8. 評価

教師は、学習者の知的・社会的・身体的な持続的発達を評価し保証するために、形式的あるいは非形式的な評価方略を理解して用いる。

##### 9. 反省と専門職としての成長

教師は、自分の選択や行為が他者(生徒、保護者、学習コミュニティ)の中での他の専門家)に与えた効果を継続的に評価する反省的実践家であり、専門職として成長するための機会を積極的に求めている反省的実践家である。

##### 10. 協働、倫理、連携

教師は、生徒の学習や幸福を支援するために、学校の同僚、保護者、そしてよりよい広範囲なコミュニティにおける機関との連携を促進する。

**スタディノート実践事例集 塩尻市立塩尻西小学校**  
**「ふりかえる、発見する、挑戦する**  
**- マルチメディア教材とスタディノートを**  
**活用した授業『かっこよくまわろう』 - 」**

スタディタイムとスタディノートが合体！  
 道具としてそれぞれの良さを活かした画期的な  
 実践がビデオになりました！

実際に自分たちでマット運動をおこない、ビデオにとって友達と見合う。そして、マルチメディア教材「かっこよくまわろう」を見ながら何度も繰り返し練習する。その後、ビデオにとった動画を見ながら、スタディノートで友達どうし感想を送りあう。そうして、また新たな挑戦が続いていく。

スタディノートとスタディタイムを使ったこのような素晴らしい実践が、塩尻市立塩尻西小学校で行なわれました。道具としてそれぞれの良さを活かし、どう利用していくべきかを、この実践は教えてくれます。そしてそこには、子どもたちが関わり合って、ともに高まりあっていく姿が見られます。ぜひご覧下さい！

ビデオを配布をご希望の方は、下記へお問い合わせ下さい。

シャープシステムプロダクト(株)文教統轄営業部

[ E-mail ] study@ssp.osa.sharp.co.jp [ FAX ] 06-6624-0764 [ TEL ] 06-6625-3233

この実践の様子は、塩尻西小学校のホームページにも掲載されています。(http://www.shiojirinishi-e.ed.jp/)

平成 14 年度

つくば市教育委員会・つくば市教育研究会 研究指定  
**つくば市立並木小学校研究発表会のご案内**

期日 / 平成 14 年 11 月 7 日(木) 13:55 ~ 15:40

会場 / つくば市立並木小学校

主催 / つくば市教育委員会・つくば市教育研究会

締切 / 10 月 25 日(金)

お問い合わせ / つくば市立並木小学校

TEL / 0298-51-2806 FAX / 0298-51-2343

E-mail / tsukuba@namiki-e.ibk-tt-net.ed.jp

《全体テーマ》子どもが主体的に学び、あたたかくかわり合う人間関係を育てる教育実践をめざして

《生活科》身近な自然や人々と積極的にかわり生き生きと活動できる子の育成

《理科》問題解決の能力を高める理科指導法の研究  
 ~ 子どもたちが主体的に学習活動に取り組む学習過程の工夫・改善 ~

《総合的な学習の時間》自分の力でやり遂げ、たくましく生きる児童の育成をめざして

~ 一人ひとりの子どもの学びに生かす交流学習を通して ~

**雑誌紹介**

『NEW教育とコンピュータ』2002年9月号

篠原 誠(つくば市立吉沼小学校)

「2002 交流学習 全国事例徹底レポート No.6

全国からピタシの相手校が探せる交流データベース

『WEB 交流の広場』への期待」

スタディノートのインターネット掲示板を使ったつくば市内の交流学習を紹介しています。

『NEW教育とコンピュータ』2002年10月号

東原義訓(信州大学教育学部付属教育実践総合センター)

「小中学生のための e-learning システム

インタラクティブ・スタディ」

インタラクティブ・スタディが生まれてきた背景と基本的な考え方、および、機能の概要を東原先生が紹介しています。

『NEW教育とコンピュータ』2002年5月号

伊集 忠(シャープシステムプロダクト(株)文教営業部システム開発部長)

「メーカーインタビュー教育現場への応援メッセージ

『新しい教育に必要なこと、私はこう思います!』」

子どもの気づきを大切にしたいとの、開発者の想いが語られています。



ECONews は、21世紀教育研究所のホームページをご覧になるか、または郵送で受け取ることができます。郵送会員には、年会費 1000 円で、年 6 回発行の ECONews と ECONews 教材 CD-ROM、スタディシリーズ試用版 CD など無償で配付いたします。くわしくは、下記までご連絡ください。ECONews 教材 CD-ROM は、希望者のみの配布となっています。申し込みをされる際は申込用紙に教材 CD-ROM 希望とお書きになるか、その旨を当研究所までお伝え下さい。

【編集後記】『NEW教育とコンピュータ 2002年5月号』に掲載された伊集さんのメッセージは、短い文章の中でこれからの教育をしっかりと見据えていらっしゃる事が分かります。さすが、長年スタディシリーズの開発に携わってこられた方です。スタディシリーズは、中山先生、東原先生、余田先生、山野井先生と小中学校の先生方とメーカーの技術者の方々が一緒になって作り上げてきたシステムです。

Educational Research Institute for the 21st Century

**21世紀教育研究所**

address 〒305-0045 茨城県つくば市梅園 2-33-6

TEL 0298-50-3321

FAX 0298-50-3330

e-mail econews@eri21.or.jp

URL http://www.eri21.or.jp